



2022 Round.5 Okayama

第5戦 岡山国際サーキット

OKAYAMA INTERNATIONAL CIRCUIT
 September 23 [FRI] - 25 [SUN]
 Yogibo FERRARI 488 GT3 [GT3 class]
 Naoki Yokomizo
 Kiyoto Fujinami

Qualify : Race1 = P.P Race2 = 9th
 Race : Race1 = WIN! Race2 = 6th

惜しくも総合王座は届かずも、年間2勝でシルバークラス王者に

フリープラクティス/予選

Practice & Qualify



2022年、Yogibo Racing が挑戦したファナテック GT ワールドチャレンジ・アジア・パワード・バイ・AWS は、早くもシリーズ最終ラウンドを迎えた。第4ラウンドのSUGOではレース1で見事優勝を飾り、横溝直輝のシリーズチャンピオンに向けて可能性を残して挑む最終ラウンドの舞台は、岡山国際サーキット。今回も海外チームにとっては未知のコースであり、タ

イトルのためにも是非でも勝利を狙いたいレースだ。しかしそんな一戦の前に、Yogibo Racing が使用するフェラーリ 488 GT3 EVO は、世界的なフェラーリの好結果を受け厳しい性能調整が課されることになり、さらにシルバークラスのドライバーふたりが乗り込む Yogibo Racing にはウエイトも加算。パフォーマンスとしては厳しくなることが予想された。

そんな岡山でのレースウィークは、9月22日(木)にスタートした。午前10時30分からのペイド・プラクティスは曇り空で始まり、Yogibo Racing は横溝、藤波清斗、さらに横溝と細かくピットインしながら調整を続けるが、やはりタイムが伸びない。午後2時からのペイド・プラクティス2は開始直後から雨が降り出し、なかなか思うようにセットアップも進まない。

明けて9月23日(金)の走行2日目は午後0時からフリープラクティスが行われ、コンディションも好転していくが、Yogibo Racing の苦闘は続いた。8番

手につけるも、トップからは1秒以上の差があり、午後3時30分からのオフィシャルプラクティスも10番手。横溝、藤波の表情も暗いままだった。

しかし、セットアップでこの不利を補おうとセット変更にとトライ。これが9月24日(土)の予選で功を奏した。クオリファイ1に臨んだ横溝は、途中赤旗中断に阻まれるものの、チェッカーまでアタックを続けると、最後に1分29秒042までタイムアップ。前日までを大幅に上回るタイムで、見事クオリファイ1のポールポジションを獲得してみせた。

続くクオリファイ2ではプロドライバーたちがそろうなか、藤波も渾身のアタックをみせるが、やはりプロ同士の僅差の争いのなかでは性能調整とウエイトが響き、結果は1分29秒237で9番手。チャンピオン争いを繰り広げるライバルたち、特に同じ車両を使う #777 フェラーリも苦戦しており、スピードは「限界いっぱい」というもの。決勝も僅差が予想された。

決勝レース1

Race 1 Report



晴天のもと迎えた9月24日(土)の決勝レース1。スタートを務めた横溝は、まずは1コーナーをトップで通過し、今季多くのレースと同様に、後続とのギャップを築きにかかる。3番手以下は大混戦で、横溝にとってはマージンを築く理想的な展開となった。

しかし7周目、後方を走っていた#19 ランボルギーニがバックストレートでストップ。この処理のためにセーフティカーが導入され、横溝が築いたリードが霧散してしまう。ただ、事前にチームはセーフティカーについて対策を準備しており、さらに好都合なことに、横溝の背後にはGT4クラスの車両が入っていた。13周目のリスタート明け、横溝は後続をコントロールすると一気にスパート。2番手とのギャップを作ることに成功し、15周を終えピットイン。藤波に交代した。

がってきた。しかも同様に性能調整を受けている車両だが、ウエイトの差、さらに相手はニュータイヤを履き強烈なペースで追い上げてくる。藤波はリードを守ろうと、渾身の走りで首位を守り続けていった。

チーム全員が1時間が過ぎるのを固唾を呑んで見守るなか、藤波は最後は1.225秒差まで迫られながらも首位を死守。トップチェッカーを受け、Yogibo Racingに嬉しい今季2勝目をもたらした。



横溝が築いたマージンもあり、藤波はトップで戦列に復帰する。ただ、後続からは今季ここまで何度もYogibo Racingと戦い、そして勝利を奪い取っていった#777 フェラーリが戦術の妙を活かし2番手に上

決勝レース2

Race 2 Report

嬉しい2勝目を遂げた翌日の9月25日(日)。長いようで短い今季の最終戦となるレース2を迎えた。スタートドライバーを務めた藤波は、9番手から激しい1コーナーの争いに入っていくが、目の前で2台が接触した。GT3 オーバーオールタイトル争いのライバルである#27 フェラーリ、#99 メルセデスが接触し、#27 フェラーリはスポンジバリアへ。この処



理のためセーフティカーランとなったが、#27 フェラーリはラップダウンとなったほか、レース中には#99 メルセデスには100秒ものペナルティストップが課せられた。

このまま、もしYogibo Racingが表彰台圏内でフィニッシュすることができれば、あわよくば横溝の総合チャンピオンの可能性もあるかもしれない……。チームは一縷の望みを繋ぐべく、藤波が16周を走るとピットイン。横溝に交代した。

ただYogibo Racingはレース1を制しており、ピットイン時、15秒間のサクセスペナルティストップが必要になった。ピットアウト後、横溝は追い上げをみせていくが、上位陣とのタイム差を見ると、やはりこの15秒が大きいのしかかってくる。



残念ながら他を圧倒するほどのペースはなく、最後は6位で終えることになった。15秒が響くかたちとなったが、ノーマスでの戦いで最終戦を終え、チームは「やり切った」気持ちでシーズンを締めくくった。

■ 芳賀美里監督コメント @misato_SUPERGT



いつもレースが終わった直後は『勝ったんだ』という実感がありませんが、最終ラウンドのレース1はチャンピオン争いをあきらめない気持ちもあったので、狙いどおりに勝つことができ本当に良かったです。セーフティカーでリードを失ってしまいましたが、そうなったときのシミュレーションも事前にできていましたし、意識の共有もできていました。そういった準備もしっかりできていたので、勝てる手ごたえはありましたね。レース2では期待通りの流れにはなりま

せんでしたが、毎戦ごとにチーム力が高まる手ごたえを感じていましたし、反省点を次に残さないようにしていました。一年を通してみると良いシーズンだったと思います。最終戦に予定されていたインドネシアがなくなり残念ですし、シリーズチャンピオンを狙っていたので悔しい気持ちはありますが、SNS等を通じてファンの皆さんからたくさんの応援をいただいたことはYogibo Racingの大きな力になりました。今後も皆さんの期待を裏切らないように頑張っていきます。

■ ドライバーコメント



横溝直輝 選手 @NaokiYokomizo

金曜までは厳しい状況でしたが、レース1では優勝できて良かったです！チームがセットアップを換えてくれて予選で前に出られたのが繋がりました。セーフティカーについては、導入するまでには至らない状況ではないかと思いましたが、リスタートの決断でリードを守ることができました。レース2については15秒のストップも響きましたね。チャンスはあっただけ

に悔しいところではありますが、こういったかたちで一年レースを戦い、チャンピオン争いもできたことは嬉しく思います。自分たちでドラマを作って乗り越えて……のようなシーズンでした。最終戦については悔しいです。でも、シーズンを通じてみれば良いシーズンでした。Yogibo Racingに感謝していますし、来年もこの体制で戦うことができたらいいですね。



藤波清斗 選手 @fujinamikiyoto

レース1リードを守り切れて本当に良かったです。途中は追い上げられましたが、30kgのウエイトがやはり効いていましたね。ロングランではブレーキなどがかなり厳しくなってきます。レース2は予選で前にはいけなかったのが悔しいところですが、レース序盤には混戦のなかでポジションを上げることができました。ただその後はペースがあまり良くなかったので、

その点は心残りですね。とはいえ、いろいろなことがあったシーズンで最後までしっかり戦い続けることができましたし、楽しい一年でした。これまで乗っていたクルマとは違うタイプのフェラーリをドライブすることができましたし、自分の力も、足りない部分も見えてきたと思います。いろいろな点を復習して、しっかりと考え来季も戦うことができればと思っています。

Information

2022年のGTワールドチャレンジ・アジア・は、最終戦に予定されていたインドネシア戦がキャンセルとなったことから、この岡山ラウンドが『シーズンフィナーレ』と銘打たれた。最終的に、Yogibo RacingはGT3シルバークラスチャンピオンを獲得。GT3オーバーオールでは3位という結果となった。

GT3 オーバーオールでは3位に
シルバークラスはチャンピオン獲得！

Yogibo Racing 2022年ランキング

GT3 シルバー：横溝直輝 チャンピオン (204pt)
 藤波清斗 3位 (154pt) / 密山祥吾 4位 (50pt)
 GT3 ドライバーチャンピオンシップ：
 横溝直輝 3位 (112pt) / 藤波清斗 4位 (88pt)
 GT3 チームチャンピオンシップ：4位 (112pt)

